二手に作りて八百人ばかりにて五百人引籠
て先陣を進んで東海林を部高宗長の二百人にて打る
るを以包んで討とる（ほ）ど百人五百人宗
之丞を焼て陣所なる千三百人の世伝を追掛て
北の方へ向て兵庫助炬火を立て大軍なる様に
見せ五百人ばかり城より軍を掛て城に入て
投る（ち）方長刀の鋒を揃て追ふ中を言て百人
伏る所をうつてうつたりとて敵二百人と味方の軍八度
五度まで入と覚えし（た）入道殿の方の鉄砲の音千雷の如く
なり大地も軍ばかりにて為千の炬火閃て空も乾
つ方を遠くとぶ（ば）ばかりの星のわくごとく成声遠て
在ふ所焼立つる火の色影さうれば次第に喊声遠く
望え松明て白昼の如く計打きけるば味方打負ける
と成て同陣に伴ふ長尾九郎左衛門尉老武者
向て云ふ様に後陣の軍八味方負打負けるれば
此白昼の如く計の弾の間に次第に遠ざかる行くハ不審
と申れ給ば長尾の親に遠ざかる行くハ不審